

1. 内政

▼新内閣結成に向けた動き

・7日、ヴォローニン共産党党首は、問題を解決するための唯一の手段は繰上げ総選挙である旨強調。また、同党首は、同党はティモフティ大統領との首班指名に向けた協議に参加しない意向を表明し、同党からの議会議長の選出は要求しない旨発言。

・7日、ティモフティ大統領は、議会会派代表等との首班指名に向けた協議を実施。協議後、ストリレツ自由民主党会派代表は、具体的な首相候補に関しては協議されなかった旨発言。ルプ民主党党首は、早急に首相候補を確定するよう大統領に要請した旨発言。

▼3日の議会決定をめぐる動き

・7日、ティモフティ大統領は、3日に採択された議会による憲法裁判所判事の罷免を可能とする法律に関し、特に欧州から懸念が表明されている旨発言。同日、ヴォローニン共産党党首は、欧州にモルドバの議会の活動に関し批判する権利はない旨発言。また、ルプ民主党党首は、3日に採択された一連の法律を公布しないよう大統領に要請し、公布された場合、同党は首班指名に向けた交渉の席に戻ることが困難になる旨発言。8日、ティモフティ大統領は、裁判官の無罷免性の原則を遵守することの重要性を強調し、同法律を議会に差し戻し。

・8日、フィラト自由民主党党首は、同党は欧州統合プロセスを継続する旨改めて表明し、3日の決定は欧州の価値観の保護、司法及び政治に対する国民の信頼回復が目的であった旨発言。

・9日、ティモフティ大統領は、3日に採択された国家汚職対策局の管轄を議会から内閣に変更する法律、議会選挙における議席獲得のための政党の足切りラインを4%から6%に変更する法律、政府代行の権限を明確にする法律及び首相代行の権限を強化し閣僚等の任命・罷免権を付与する法律を公布。

・10日、ギンプ自由党党首は、政府及び首相代行の権限強化に関する2つの法律の違憲審査請求を憲法裁判所に行う意向である旨発言。

2. 経済

▼対モルドバ支援

・8日、ブマコフ農業・食品産業相代行は、レアンカ首相代行との会談において、2012年の干ばつ対策として世銀から1,000万ドル、幼稚園・小学校等へのバイオマスボイラー導入

プロジェクトとして日本から1,400万ドルの支援を受けるため、然るべき対応を取らなければならない旨発言。

▼農業

・10日、ブゾボイ穀物生産者協会会長は、ここ2週間の高い気温が穀物に深刻な影響を与えている、既に豆類に影響がでており、このまま高い気温が続けばトウモロコシにも影響を及ぼす恐れがある旨発言。

3. 外政

▼3日の議会での法採択に関する動き

・7日、シュルツ欧州議会議長は、3日にモルドバ議会が適切な協議及び準備なく憲法裁判所判事の議会による罷免を可能とする法律をはじめとする一連の法修正を行ったことに懸念を表明する声明を発表。

・7日、大統領報道官は、3日にティモフティ大統領はフィーレ欧州委員と電話会談し、3日に自由民主党と共産党により採択された一連の決定を公布しないよう助言された旨発言。9日、フィーレ委員は、モルドバの与党の欧州統合路線を後押しするため18、19両日モルドバを訪問する意向である旨発言。

・7日、ティモフティ大統領は、バセスク・ルーマニア大統領と電話会談し、モルドバの内政問題及び欧州統合路線継続のための新内閣の形成の必要性等に関し意見交換。9日、バセスク大統領は、3日に議会で採択された法律はモルドバ・EU関係に悪影響を及ぼしかねない旨発言。

・7日、ティモフティ大統領は、ミニョンPACE議長と電話会談を実施。ミニョン議長は、3日に採択された法律はモルドバの欧州路線の脅威になるとして懸念を表明。ティモフティ大統領は、同法律に関しては憲法に照らし合わせ詳細に検討した上で結論を出す意向である旨回答し、議会各会派との首班指名に関する協議が開始されたことから近日中に議会が新内閣を信任することを確信している旨発言。

▼その他

・9日、ロゴジン露副首相は、モルドバを訪問し、キシナウにおける戦勝記念日に際する祝賀式典に参加。

4. 沿ドニエストル

・9日、ティラスポリを訪問したロゴジン露副首相兼沿ドニエストル担当露大統領特使は、シェフチューク「大統領」と共に戦勝記念日の祝賀式典に参加し、ロシアは沿ドニエストルに対する社会経済支援を継続する旨発言。また、同副首相は、式典においてユーラシア共同体へのモルドバの参加を呼びかけ。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)